



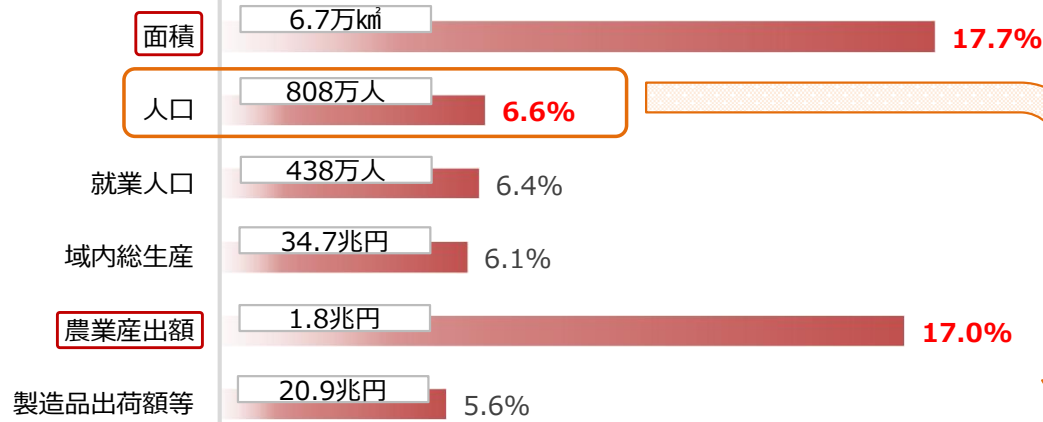
最近の東北財務局管内の経済情勢等

- I. 東北財務局管内経済構造
- II. 東北管内の各産業における中東情勢の影響

令和8年9月
東北財務局

I. 東北財務局管内経済構造

(1) 経済規模等（全国ウエイト）

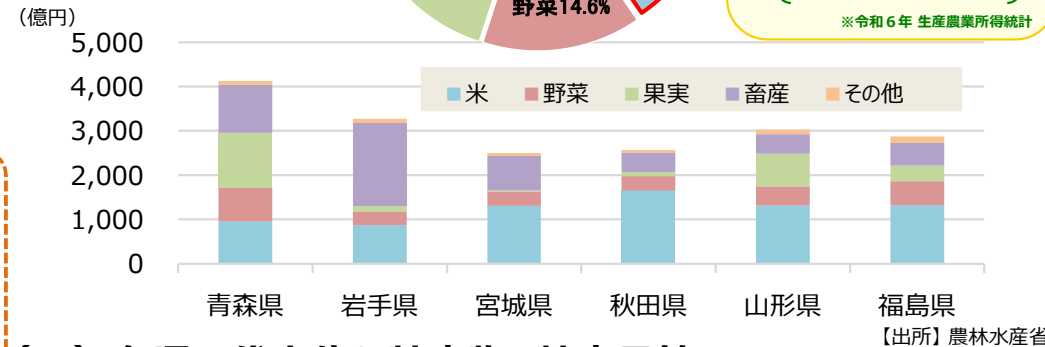


(3) 農業産出額（2024年）

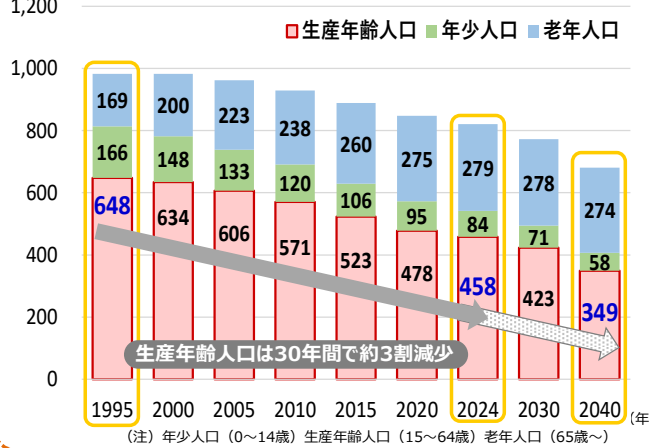
～米どころの東北～



<各県の農業産出額>



<東北における年齢3区分人口の推移>



<東北各県の人口減少率と高齢化率>

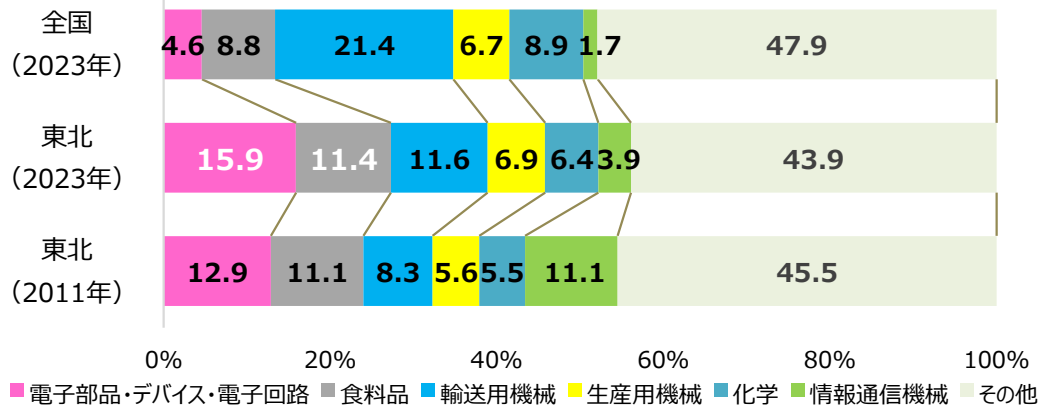
	人口減少率 (2020年～2025年)		高齢化率 (2020年) (65歳以上)	
	全国順位		全国順位	
全国	▲2.5%	—	28.6%	—
青森	▲7.9%	2	33.7%	7
岩手	▲7.0%	3	33.6%	8
秋田	▲8.1%	1	37.5%	1
宮城	▲3.2%	35	28.1%	38
山形	▲7.0%	4	33.8%	6
福島	▲6.6%	6	31.7%	22

(4) 各県の代表的な特産物、特産品等



(2) 製造品出荷額等の業種別構成比

【出所】経済産業省



Ⅱ. 東北管内の各産業における中東情勢の影響

◎中東情勢の影響は、東北の基幹産業である農業はもとより、夏祭りなどの重要な観光資源や地域の伝統産業にも波及し始めている。

農業（稲作）への影響

●東北地方では、農業産出額に占める米の割合が4割。また、国内の米の3割を生産している。

◆化学肥料価格の高騰

- ほぼ全量を輸入に頼っている化学肥料（天然ガス由来のアンモニアを原料とする尿素等）の相場が中東情勢の影響により世界的に上昇。

水稻農家の経営コストは
肥料費の割合が約1割
コスト増による経営圧迫

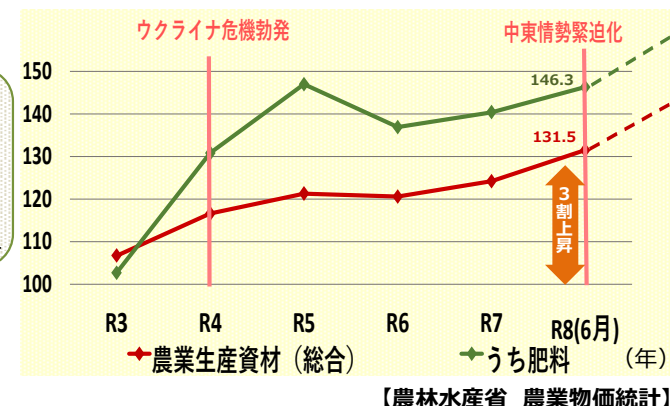
価格高騰により
肥料の使用量を抑制
収量・品質低下のリスク

◆米袋の価格高騰・調達難

- ナフサを原料とする米袋のため価格が上昇
- 供給制約による樹脂メーカー側の生産調整

コスト負担の増加、包装資材の不足による
出荷遅延、販売機会の喪失の懸念

《農業生産資材価格指数(令和2年=100)》
(各年平均・R8は6月単月)



ウクライナ危機以降の国際的な相場動向や為替の影響など
➢ その多くを輸入に頼る農業生産資材の価格は上昇傾向

中東情勢の緊迫化による
エネルギー価格の上昇

農業生産資材価格指数は3割上昇 ※令和2年比

【生産者の声】

- ・米袋は6月分まで確保しているが、7月分以降は3割程度の値上がりがあることから、先行きを懸念している。
- ・様々な資材価格が上昇している中、稲作では収量や品質の安定のために夏の追肥が欠かせないことから、足下の肥料価格の上昇により経営コストがさらに膨らんでいる。

【農業関係者の声】

- ・化学肥料そのものだけでなく、肥料袋も値上がりしているため、肥料全般の価格が上昇している。
- ・JA全農が公表しているとおり、6月からは肥料価格が最大で14.5%上昇しており、今秋以降はさらなる値上がりが想定されていることから、生産者の収益環境の悪化が懸念される。
- ・化学肥料の価格高騰への対策として、来年からは堆肥を増やして化学肥料の使用を減らすことを検討する生産者も出てきているが、以前と同じような施肥による効果が得られるのかも考える必要があり、一筋縄ではいかない状況である。

◎足下では、コメの需給状況や価格変動の影響により、生産者等を取り巻く環境は厳しさを増しており、再生産を可能とする価格形成など農業の持続可能性への懸念があるところ。

Ⅱ. 東北管内の各産業における中東情勢の影響

東北の夏祭りへの影響

【写真：一般社団法人 東北観光推進機構】

～「青森ねぶた祭」の例～

- ねぶた祭りの制作現場でも、中東情勢の影響により、制作に必要な資材の価格高騰などの影響が表れはじめている。

青森ねぶた祭

- ・毎年8月2～7日に開催。入込客数と経済効果は東北の祭りでは随一。
※昨年(R7)は、入込客数101万人、経済効果は300億円超との調査結果も。
- ・「人形ねぶた」と呼ばれる山車に続き、「跳人（ハネト）」と呼ばれる踊り子たちが「ラッセラー、ラッセラー」と掛け声を上げながら踊り歩く。
- ・由来には諸説あり、藩政時代の文献にも登場。現在のように大型化したのは戦後。昭和55年には国の重要無形民俗文化財に指定。

- ◆ 祭りの見どころである「ねぶた」は巨大な立体構造物。

- ◆ 制作には、木工用接着剤、電球、配線、針金、塗料、和紙などの資材が必須であり、その多くは石油化学製品に依存。

単価上昇×数十～数千単位の使用量 = 中東情勢の影響が制作コストを直撃

- 和紙の貼り付けや針金の固定など、ねぶた1台を完成させるのに10kg以上必要とされる、木工用接着剤の価格が高騰。
- 電球（1,000～2,000個/1台）や針金（約200Kg/1台）、ロール紙（60m×10本/1台）といった材料も軒並み価格が上昇。



【関係者の声】

- ・中東情勢の影響が指摘され始めた当初から、制作者側において部材の早期確保に努めた結果、今期の制作に必要な部材については何とか確保できたが、来年の祭りに向けた今後の制作活動等への影響が懸念される。
- ・ねぶたの部材は、これまで使い捨てとされることが多かったが、資材価格が高騰する中、電気配線などを再利用し、コストを抑える努力をする制作者も増えている。

～「大曲の花火」の例～

- 中東情勢の影響などにより、「花火玉」の乾燥に必要な燃料や、火薬の原料などの価格が上昇。

大曲の花火

- ・秋田県大仙市で春・夏・秋に開催される3つの花火大会の総称。
- ・明治期に地域の神社の祭りの余興として開催されたことを起源に、100年以上の歴史。
- ・特に、夏の「全国花火競技会」は全国でも最高峰の大会と言われ、その中で行われる「昼花火」の競技会は日本で唯一。



【左右幅900mもの圧巻のスケールの大会提供花火「ワイドスターメイン」】

【関係者の声】

- ・原材料費の高騰や人件費等のイベント経費の増加により花火大会の減少が懸念される。

II. 東北管内の各産業における中東情勢の影響

地域の伝統産業や名産品への影響

～南部鉄器の例～

南部鉄器

・江戸時代、南部（盛岡）藩主が京都から釜師を呼び、領内で豊富に採れる木炭や砂鉄を使って釜を作らせたのが始まりの一つと言われ、参勤交代の際の贈答品としても重宝されたことで国内各地に流通。

・昭和50年に国の伝統工芸品第一号に指定され、近年は海外でも人気。

●岩手県の伝統工芸品である南部鉄器の制作においては、原材料である銑鉄や化学資材(塗料、シンナー)の価格高騰などの影響。

◆南部鉄器では、表面処理・防錆、デザイン(黒・カラー)に塗料を使用。

➢ その際の下地調整・洗浄、希釈等に必要なシンナーの価格高騰などが制作現場に深刻な影響。

小規模な工房が多いため、価格転嫁力が弱く、利益が圧迫されやすいほか、調達難への懸念も。

➢ 米国の政策に翻弄され、
米国関税措置×中東情勢のダブルパンチを受けている企業も存在。

【企業の声】

・売上の約2割を占める海外向けについて、

➢ **米国関税措置で「鉄鋼」に分類され関税率が高くなったことで、米国での需要が振るわず**、売上が減少。

また、

➢ **中東情勢緊迫化に伴い、塗料用シンナーの供給不足が発生**。現状は在庫分を用いて生産を継続できているが、**今後の生産への影響を懸念**。

【南部鉄器製造業】

～笹かまぼこの例～

笹かまぼこ

- ・明治の中頃に、大量に獲れた魚の保存方法として生まれた焼きかまぼこ。
- ・伊達家の家紋「竹に雀」の笹の形に似ていることから「笹かまぼこ」と呼ぶようになったと言われる。
- ・宮城県内には40軒以上のメーカーがあると言われており、土産品としても人気。
・仙台市はかまぼこの支出金額全国1位！

●宮城県を代表する名産品である「笹かまぼこ」においては、原料であるスケトウダラ等のすり身及び包装資材の価格上昇・供給不安といった影響。

すり身

・原油供給の不安定化に伴う漁船用燃料の不足により、各国で漁業活動そのものが停滞。**日本向けすり身供給の先行きにも不透明感**。

包装資材

(笹かまぼこは「**個包装**」のため影響大)
・石油由来の包装資材でも、**原料不足や物流等の目詰まりにより、供給不安と価格高騰が同時に進行**。

日本かまぼこ協会

「**水産練り製品の安定供給に関する緊急声明**」を发出 (2026.6.1)

- ・「冷凍すり身原料」と「包装資材」の双方における同時的な供給制約は、これまでに例のない複合的危機。
- ・このまま状況が改善されなければ水産練り製品の安定供給が困難となり、製品出荷に重大な支障を及ぼす可能性がある。

【日本かまぼこ協会】

【企業の声】

・基本的に**個包装の製品**であるため、**包装資材の値上げによるコスト増加の影響が非常に大きい**(5月に20%値上がり)。向こう半年分の在庫は確保しており、製造に支障はきたしていないものの、**今後も影響が長期化した場合、コストの増加や生産への影響が懸念**される。

・原材料の調達に関しては、現時点では直接的な影響はみられていないが、**今後は燃料費の高騰による仕入価格の上昇といった影響が懸念**される。

【笹かまぼこ製造業】